サンスポ

原英莉花

19年ジュニアレッスン会で師匠と

原　英莉花（はら・えりか）　１９９９（平成11）年２月15日生まれ、22歳。横浜市出身。10年歳でゴルフを始め、神奈川・湘南学院高在学時の２０１５年から尾崎将司に弟子入り。17年のプロテストは失敗したが翌18年に合格。19年「リゾートトラストレディス」でツアー初優勝し、同年賞金ランキング14位に入った。今季（20―21年統合シーズン）は「日本女子オープン」など国内メジャーで２勝し、同ランク５位（約７６２０万円）につけている。１７３㌢、58㌔。

10番でティーショットを放つ原。師匠ジャンボのアドバイスを胸に、日本屈指の難コースに挑む（撮影・戸加里真司）

原は相模灘を望む名物の17番で、砲台グリーンの下からピンを狙ってクラブを振った　（撮影・榎本雅弘）

女子ゴルフの「第39回フジサンケイレディスクラシック」（サンケイスポーツなど主催）は23日から３日間、静岡・川奈ホテルＧＣ富士Ｃ（６４３９ヤード、パー71）で開催される。22日は練習ラウンドが行われ、原英莉花（22）＝日本通運＝は18ホールを回って最終調整。腰を痛めて手負いの状態だが、〝師匠〟のジャンボこと尾崎将司（74）の教えを胸に、川奈に挑む。【７面にもフジサンケイレディス】

きょう開幕 39th フジサンケイレディスクラシック

乗り移ってほしい!!

師匠 ジャンボ魂で川奈攻略だ

「自信持って」

霊峰富士をかなたに望む緑が目にまぶしいフェアウエー。笑みをたたえた原が日本屈指の難コース、川奈に再び挑む。

「難しいコース。パッティングなどイレギュラーなことを想定できないと、いいプレーは生まれない。耐えるときは耐え、自信を持ってプレーできれば」

18ホールを回り、その後は40分のパッティング練習。会見に出席後、再び練習場に足を運んで調整した。53位で予選落ちした２０１９年大会に続く２度目の出場。「ティーショットをしっかりとフェアウエーに置くのが一番の鍵になってくる」と分析した。

メジャーの「ＡＮＡインスピレーション」（１～４日、米カリフォルニア州）に出場したが113位で予選落ち。６日に帰国すると、車で15時間かけて宮崎に移動した。日本ゴルフ協会（ＪＧＡ）の強化拠点になっている「フェニックス・シーガイア・リゾート」で練習しながら、14日間の隔離生活を行った。

アドバイスも

川奈で開かれた男子ゴルフの「フジサンケイクラシック」で、５度の優勝を誇るジャンボ尾崎の門下生だ。隔離期間が明けて21日に帰京すると、千葉県内の師匠宅を訪問し、アドバイスを求めた。ジャンボは「逆目の上りをどうやって打つかは考えものだな」。原は芝目のきつい高麗グリーンの対応策について、「自分で答えを探せということだと思う」と受け止めた。

そのジャンボが１９８７年大会最終日に16番、17番でマークした連続チップインでのイーグルとバーディーは伝説となっている。砲台グリーンが川奈名物の17番では、ピンが見えないグリーン下からのアプローチをカップに沈めた。自身も17番で練習した原は「意味が分からない」と驚き、「（尾崎が自分に）乗り移ってほしいです」と〝神頼み〟した。

日本男子として初めてメジャー「マスターズ」を制した松山英樹（ＬＥＸＵＳ）からも刺激を受けた。宮崎での練習中に持病の腰痛が再発するなど万全の状態ではないが「私もプロゴルファーとして、人に感動を与えられる選手になりたい」。

通算４勝目へ

新型コロナの厳格な感染予防対策を講じ、観客を入れて行われる今大会。原が感動のプレーで通算４勝目を狙う。

（一色伸裕）

5度制覇 87年17番伝説チップイン

尾崎将司の川奈５勝ＶＴＲ

１９８１年から２００４年まで川奈で開催された「フジサンケイクラシック」で、尾崎将司は５勝を挙げた。86年は１年７カ月ぶりのツアー優勝。87年は最終日、首位と１打差で迎えた16番（パー５）でチップインイーグル。17番（パー３）でもグリーン下からチップインバーディーを奪って逆転＝写真。連覇を果たした。89年は最終日が悪天候で76と崩れたが逃げ切り。90年は最終日に８打差の28位から出ると、64をマークして２度目の連覇。93年は通算14アンダーで制した。

【主催】サンケイスポーツ、産経新聞、フジテレビ、文化放送、ニッポン放送、BSフジ
【公認】日本女子プロゴルフ協会
【会場、特別協賛】川奈ホテル
【後援】日本ゴルフ協会、日本ゴルフトーナメント振興協会、伊東市、夕刊フジ、フジサンケイ　ビジネスアイ、テレビ静岡
【協力】伊東商工会議所、伊東観光協会、伊東温泉旅館ホテル協同組合、伊豆急行、東海バスグループ
【協賛】旭化成、コーセー、ＳＵＢＡＲＵ、大和証券、東芝、ダンロップスポーツマーケティング、明治、ＡＬＳＯＫ、ＫＩＲＩＮ、日本生命、ミロク情報サービス
【運営企画】ランダム　アソシエイツ
【競技運営】ダンロップスポーツエンタープライズ

＜紙面構成＞野村浩平

甘口辛口

先ごろ永眠した橋田壽賀子さん（享年95）は、晩年の著書「安楽死で死なせて下さい」（文春新書）でこう記していた。倉本聰さんや山田太一さんは名脚本家、また亡くなった向田邦子さんは天才脚本家と評し「私の書くドラマはどれも二流です。ドラマが二流なら、書く人間も二流」であると。▼そこには１９６０年代のテレビドラマ黎明期から活躍してきた同業者への意識、逆説的な自負が感じられる▼そうした達人たちが作り上げた原点を見たい―。そう思って当時のドラマを求めたが、70年代前半にかけて貴重だったビデオテープを使い回すことが多かったため、現存しないものも多い。そんな中で橋田さんが名前をあげた山田さんの初期の作品、１９６８年の「３人家族」の再放送を見て、確かに感銘を受けた。父と弟と男３人家族の長男（竹脇無我）と、母と妹と女３人の長女（栗原小巻）が満員通勤電車で偶然知り合い、商社での出世競争や結婚への悩みを絡めた恋愛模様、家族の触れ合いなどを描く。その後の「二人の世界」にも言えるのだが、世相も巧みに取り入れた山田作品は今でも見応えがある▼橋田さんのドラマも、70年代前半のＴＢＳ日曜劇場など特別放送がＣＳで始まった。代表作の83年の「おしん」は２年前にＮＨＫＢＳで再放送され、大河ドラマは81年の「おんな太閤記」などＤＶＤ化されており見ることはできる。しかし、60年代のものはなかなかお目にかかれず、64年の「愛と死をみつめて」は機会があればぜひ拝見したい。それとともに、テレビ局の倉庫や、民間に眠っているかもしれない橋田作品や山田作品、他の昔のお宝映像もできる限り発掘してほしいものだ。（宮本圭一郎）

2021.4.23

ナイスオン!!

辻梨恵プロ「年間２万㌔」試合会場へは車移動

きっちりメンテナンスして

ゴルフも車もメンテナンスが大切。辻は取材後に次戦の試合会場へ向け愛車を走らせた

バッテリーチェック 愛車も

本格的な春が到来し、ゴルフ場への移動手段として車に乗る機会が増えるのもこの季節だ。ゴルファーにとって車は切っても切れない関係にあるといっていい。自らハンドルを握ってツアーを転戦するプロも少なくない。今回は女子ゴルフの辻梨恵（27）＝大和証券＝に車とゴルフの関係についてインタビュー。ゴルフにも車にも共通する重要なメンテナンスの重要性について語ってもらった。

試合前後に体ケア ゴルファーも

辻　梨恵（つじ・りえ）　1994（平成６）年１月28日生まれ、27歳。神奈川県南足柄市出身。13歳でゴルフを始める。埼玉栄高時には「全国高校選手権」団体で優勝し、2015年にプロテスト合格。16、17年は２年連続で賞金シードを獲得した。169㌢、64㌔。

トラブル回避

ゴルファーにとって車は重要な移動手段であり、ツアーを転戦するプロにとってもそれは変わらない。宿舎と試合会場の往復はもちろん、自らハンドルを握って全国各地を転戦する選手も少なくない。

神奈川県南足柄市を拠点とする辻は西は兵庫、東は茨城、栃木まで愛車のトヨタ・アルファードを運転して試合会場へ向かう。「年間の走行距離は２万㌔ぐらいですね。荷物が多いので、できるだけ車で移動したい」と辻。九州や沖縄、北海道など飛行機で移動する場合は空港からレンタカーでゴルフ場へ向かうという。

だからこそ、肝心なのが日頃のメンテナンスだ。特に要注意なのがカーバッテリーで国土交通省の調べでは、ドライバーが直面するトラブル原因の４分の１が「バッテリー上がり」だった。車の電子化により、カーバッテリーの負担は増えている。近年、主流になっているアイドリングストップ車はエンジン停止中にも電気を供給し続けているため、電力不足になりがちだ。

辻自身がトラブルに見舞われたことはなかったが、親しいキャディーの愛車がバッテリー上がりで立ち往生し「レッカーで運ばれたことがあった」という。幸い、試合日ではなかったため大きな支障は出なかったが「もし、試合日に自分の愛車で同じことが起きたら…」とバッテリーチェックの大切さを認識した。

電子化で負担増え

日常のメンテナンスが重要なのは車もゴルフも同じだ。ツアーを転戦する上で辻が重要視しているのが体のメンテナンスだ。「疲れが出たり、逆に張りがなかったり、毎回違う中でベストな状態を作ることが大切」と試合前後に理学療法士のケアを欠かさず受けるようにしている。

すべては最高のパフォーマンスを発揮するため。「１回さぼってケアをしないで放置したらどんどん悪くなる」と辻は体も愛車も万全の状態にして次戦の会場へ向かう。

高い耐久性＆長寿命化実現!!パナソニック「caos」

パナソニックの「ｃａｏｓ（カオス）」シリーズは最新テクノロジーを搭載した高性能な製品をラインアップしている。車の電子化や車載部品の電動化、省燃費技術の進化により、カーバッテリーの負担は増加傾向にある。さらに近年、主流になっているアイドリングストップ車はエンジンの停止と始動を常にくり返しており、エンジン停止中にも電気を供給し続けているため、電力不足になりがちだ。

「ｃａｏｓ」はこの課題に素早く充電できる〝クイックチャージ性能〟を強化した大容量バッテリーで対応。加えて高い耐久性と長寿命化も実現し、安心のカーライフをサポートする。

ゴルフとは切っても切れない関係にある車。ドライブ中に思わぬハザードにはまり、抜け出せなくなる前に、日頃のメンテナンスが重要だ。

Panasonic
caos